

テーマ：ロイター短観（2012年8月）
～海外経済の回復が待たれる～

発表日：2012年8月24日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL：03-5221-4525

		製造業DI											非製造業DI							
		素材型					加工組立型						不動産・建設	卸売	小売	情報サービス	運輸・電力	その他サービス		
		繊維・紙パ	化学製品	石油・窯業	鉄鋼・非鉄		食品	金属・機械	電機	輸送用機器	精密機器、その他									
11	1月	11	7 ▲25	14	11	16	13	25	5	10	21	12	▲2	▲30	▲13	9	9	13	4	
	2月	14	9 ▲38	17	11	33	16	0	22	10	31	12	3	▲25	7	13	27	▲6	7	
	3月	15	15 ▲13	22	11	33	15	▲20	23	4	31	25	3	▲30	0	23	25	▲7	9	
	4月	▲13	▲16 ▲63	▲5	0	▲16	▲11	0	▲15	8	▲38	▲25	▲15	▲22	▲20	11	9	▲36	▲25	
	5月	▲9	▲22 ▲50	▲13	▲25	▲15	0	25	▲12	23	▲33	▲12	▲4	▲19	15	12	10	▲36	▲13	
	6月	▲3	▲17 ▲40	▲14	0	▲10	4	38	21	▲4	▲16	▲17	▲10	▲21	5	4	0	▲27	▲14	
	7月	1	▲10 ▲30	▲5	0	▲11	9	13	25	8	0	▲15	3	▲13	16	14	21	▲7	0	
	8月	6	0 ▲30	16	0	0	11	▲20	9	8	29	9	7	▲9	18	13	25	▲12	13	
	9月	8	2	10	5	0	▲12	10	0	9	5	27	9	3	▲12	12	9	19	▲7	7
	10月	6	2	▲11	11	0	0	9	0	0	4	33	7	1	▲13	16	▲4	15	▲8	7
	11月	1	5	0	5	0	12	▲1	0	▲16	▲5	29	▲7	3	▲19	16	5	27	▲12	13
	12月	▲5	▲6 ▲20	▲5	▲12	12	▲4	0	▲10	▲4	7	▲9	6	▲8	26	4	27	▲4	10	
12	1月	▲5	▲4	0	▲5	▲12	0	▲6	17	▲10	▲29	14	7	6	▲15	6	8	0	22	
	2月	▲11	▲8	▲9	0	▲12	▲22	▲13	0	▲28	▲29	14	8	5	▲5	18	4	▲8	0	18
	3月	2	4	11	5	▲12	14	0	0	▲9	▲8	27	0	5	▲16	17	0	13	▲9	24
	4月	1	▲6	▲33	5	▲15	0	6	33	5	▲9	15	7	10	10	6	▲15	7	0	42
	5月	2	2	0	4	0	0	3	20	3	▲6	12	0	11	0	9	0	27	▲8	38
	6月	▲3	▲2	9	▲5	0	▲11	▲4	20	▲3	▲12	0	0	11	0	16	11	37	▲3	13
	7月	▲2	0	▲9	10	▲15	0	▲3	0	0	▲13	5	0	8	▲9	23	13	16	▲8	16
	8月	▲4	▲5	▲9	0	0	▲12	▲4	0	▲4	▲10	0	9	8	0	28	▲5	14	▲4	17
見通し		▲2	▲5	▲18	0	0	0	33	3	0	▲12	0	12	4	24	▲5	19	▲4	26	

(出所) ロイター「ロイター短観」

○製造業DI：外需の鈍さなどが重石に

8月ロイター短観（調査期間8月6日～8月21日）の製造業DIは▲4（7月：▲2）と前月から悪化した。中国を中心とした海外からの需要の弱さや円高の定着などが景況感の重石となったようだ。また、前月は原材料価格の下落による採算性の改善が景況感の下支えとなったとみられるが、足元原油価格は再び上昇しており、こうした採算性の改善の影響が一部剥落した可能性もあろう。業種別にみると、素材型、加工型ともに悪化した。素材型は▲5（7月：0）と前月から悪化が目立つ。石油・窯業が原油価格の反転による販売価格の上昇を背景に改善した一方、その他は横ばいないし悪化となった。コメントには「欧州債務問題のこう着や中国の成長鈍化、円高の定着などに伴う海外需要の不振」（化学）とあり、海外経済の足取りの鈍さや円高が重石となっている様子が窺える。加工型も▲4（7月：▲3、6月：▲4）と3ヶ月連続のマイナス圏となり冴えない。引き続き、外需の弱さが景況感を下押ししたものとみられる。「海外は中国が停滞気味で、国内も伸びが鈍化してきた」（輸送用機器）とのコメントもあり、海外に加え国内需要の伸びの鈍化を指摘する声もある。

先行きは▲2と8月実績（▲4）からの改善が見込まれているが、低調な域を脱することはできないとの見方である。特にエコカー補助金の終了を見込んだ輸送用機器が▲12と強い警戒感を抱いていることが分かる。製造業の景況感がプラス圏に転じるには海外経済の回復や、それを背景とした輸出の持ち直しを待つ必要がある。

○非製造業DI：引き続き高水準を保つ

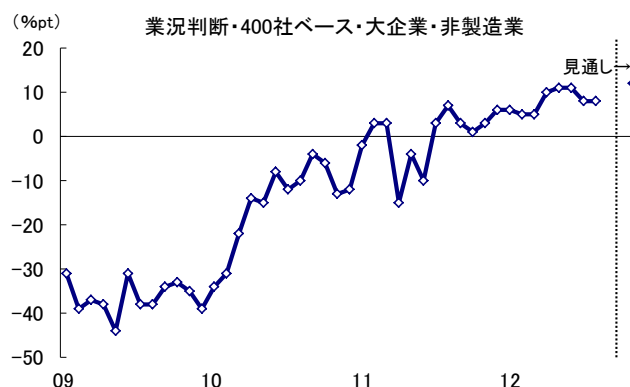
非製造業のDIは+8と前月（+8）から変わらず、底堅い推移となった。業種別では、卸売や不動産・

建設の改善が目立つ。その他サービスも5月までの勢いはないものの良好な水準を保っている。一方で、小売は4ヶ月ぶりにマイナス圏に転じた。これまで個人消費は堅調に推移していたが、足元では消費者マインドの改善に陰りがみられることなど、改善ペースの鈍化が示唆されただけに小売業の業況の悪化は懸念材料である。

非製造業全体の先行きは+12と改善が見込まれている。ただし、小売業などでエコカー補助金制度の終了の影響が懸念されることに加え、雇用や賃金が伸び悩んでいる中で非製造業の景況感が回復を続けていけるかは不透明感が強い。復興関連の公共投資などが支えとなることで良好な水準は保つものとみられるが、一段の改善は見込み難いだろう。



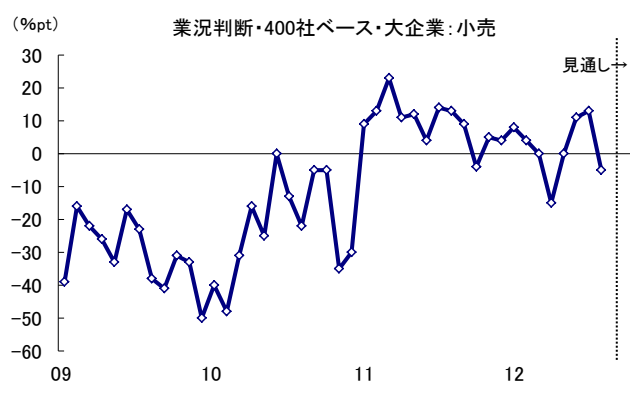
(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」